



## 美唄歯会の夜明け (その2)

美唄歯科医師会会員 雨田 実



道歯会通信570号,平成9年9月号に美唄方面会創立,大正15年8月迄を綴った時,それより後は次回にと書いたまま約1年近く経過してしまっただ。先日の国保請求書出張受付の折に小森副会長から,どうなっているのか?との問い合わせをいただいたので,不確かなメモを頼りにそれからを綴ってみる。

昭和4年,美唄町内小学学童の口腔診査を会の事業として始める。全町に散在する18校,7千余名を対象として実施する。晩春から晩秋に掛けて毎月1日か2日,方面会員全員が休診して診査に当たった。故高橋常保先生の言葉をお借りすれば,広漠東西6里に余り,南北また5里はあるであろう。夕張町を除けたら全国でも有数の大町だろう。拓殖途上の北海道だ,村では或いはこれ以上の大きいのがあっても知れないが,この大町の遠近に散在する18校,あたかも空知支部会,群雄割拠の会員みたいに,その半数が交通不便な石狩川沿岸或いは原野にあるのだから,テクレば参るのは知れている。海のない港をいく都会の足を利用すれば,半日足らずで恐らく猪1枚だ。7千の調査用紙と共に美唄方面会会員の負担は大きい。然し皆一生懸命だ。とのことで,道路も悪く現在の如く,バスの満足な路線とてなく,マイカー歯科医等まずなかった昭和初年,諸先輩がたのご苦勞には頭が下がる。ちなみに,1里は4キロ,猪1枚と

は10円のこと。その当時1ドルは2円位であったと思う。白米1俵60キロが5円の頃。

### 当時(昭和7年頃)の会員の愛称と開業年次

高橋常保・大正7年・小ハゲ,桜田巳年二・大正15年・大ハゲ,北野幸夫・大正15年・神の子,扇谷重憲・昭和2年・我路開業町会議員・和尚,扇谷一貫・昭和5年・南美唄開業・童子,三浦萬藏・昭和5年月形町開業・半平太,表山秀人・昭和6年・我路開業・秀人,島田清司・昭和7年・我路開業・我ん路,小川辰之・昭和9年・若年寄または奇声居士,山崎芳郎・昭和10年桜田巳年二先生の若先生でしばらく手伝った後,月形町に開業・ハゲ不知の毛子または下戸茶目,その他に曇空,サタン,月下曾などのメモあるもくわしくは分からないけれど,当時の方面会の親密の深さをうかがい知ることができて楽しい。

昭和8年秋,町内学童口腔検診後,我路町の観楓会の時の名吟を披露しておこう。澄む水に恥らふ風情崖紅葉,神の子。満庭撃として独り紅葉の驕哉,秀人。妻恋て鳴てふ鹿の欲しい山,我ん路。山荘の時雨紅葉や庭の錆び,童子。庵室は紅葉に暮れて鐘訝る,大ハゲ。紅葉履み分け友,互に友を呼ぶ,和尚。友も皆紅葉に染みぬ山の宴,小ハゲ。まこと長閑そのものであり,方面会一同ことごとく風流を解した辺り,古き

良き時代というに相応しいのかもしれない。

### 空知支部会月報

昭和5年には、空知支部会誌の発刊を空知支部会月報と銘うって、毎月1回発行を見るに至った。いつの世もいうことは容易く、行うことは難い。原稿の集まらないことと、毎回決まった投稿者で編集者のご苦労されたとのことである。昭和7年10月号月報から一文を転載する。

「投稿者匿名はイヤである。我が支部会の如き広汎なる地域に散在する会員の親睦を計るには、本誌の如き有意義なものはあるまい。然るに大部分の投稿者は匿名であるのは物足りない。会誌に匿名は会員相互の親和を計る所以にあらず。また投稿者が毎月殆ど限られているのも心もとない。全支部会員の一行半句にてもご投稿を願う。幹事諸氏せめて方面会の消息位お知らせ下さい」

とある。時移り人変わっても、真理は変わらない。編集者のご苦労は永久に続くのは平成の今日も変わらない。昭和7年当時、空知支部会会長は鈴木繁一先生で昭和21年まで留任され、高橋常保先生は昭和2年から4年まで空知支部会会長を、扇谷重憲先生が副会長を務めたとのことである。

この時期昭和5年1月浜口内閣の金解禁の実施によって予想をはるかに越えた金の流出がおこり、わずか5ヵ月で2億2千万の金貨が国外に流出したという。国の年間一般会計予算が17億7千万であった当時にかに多額の流出であったかが分かる。財閥、大銀行などが今のうちにとばかりドルの思惑買いに走った。日本は直ちに金解禁を中止すべきだったのに、政府は金

本位制を堅持した。6年9月英国をはじめとして諸国も続々と金本位制を停止したのに、英国の停止以来3ヵ月で金の国外流出は5億1千万を越えたという。

昭和6年の国内の恐慌は最悪のドン底をむかえ失業者は250万を数え労働争議も年間2,456件にのぼったという。困窮は労働者ばかりでなく中産階級も例にもれなかったという。大学は出たけれど映画の題名そのままに、昭和2年に就職率64%だったものが3分の1にまで落ち込んでしまった。出口のないトンネルに入り込んでしまったような経済恐慌は6年12月犬養内閣が成立、即日金輸出禁止を実施した。金解禁政策は2年程で終止符を打ったが日本経済はなかなか立ち直れなかったという。とにかく大変な不景気であったことは確かで、道内歯科界も会費の未納者が多く、毎年の道歯会定時総会で、必ずどこかの支部から、この問題が昭和の初めから10年以上も毎年論議されたということ1つでもご多分にもれず勝手元不如意であつたらしい。道内炭鉱の話、出炭罰金1円也昭和6年頃、なるべく石炭を出すな、目標以上に出した時は1屯に1円の罰金というウソのような本当の話。休日は月に10日以上もあつて困つたという、この炭鉱も貯炭の山がそびえ昭和新山ならぬ夕張新山、美唄新山、幌内新山がその高さを競い、天日のために暗しの感があつたという。5年の大相撲春場所千秋楽に1日だけ満員御礼が出たが昭和になって初めてという一事だけでも、いかに不景気であつたかが分かる。その当時は1年に本場所は春（正月）場所と夏（5月）場所の2場所だけであつた。